

平成29年度

倉吉市教育行政の点検及び評価

倉吉市教育委員会

平成30年5月

目 次

はじめに	1
1 評価・公表について	2
2 評価に当たって	3
3 主な重点施策の成果	3
4 平成29年度教育方針と重点施策	5
5 重点施策の実績と評価	6
・倉吉市教育の創造	6
・学力向上の推進	7
・豊かな心とたくましい体の育成	8
・倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成	9
・家庭・地域と連携した開かれた学校づくり	10
・よりよい倉吉教育を目指して	10
・給食の充実、食育の推進	11
・地域力を育む社会教育の推進	12
・支えあう人づくり・輝くまちづくり	13
・公民館活動の推進	14
・体育・スポーツの振興	15
・文化財の保存、活用、伝承	17
・親しみ学ぶ機会の提供できる博物館	18
・豊かな心を育む図書館づくりの推進	18
6 教育委員会の主な動向	19
(1) 教育長、教育委員の在任状況	19
(2) 教育委員会の会議	19
(3) 教育委員会の開催状況	19
(4) 総合教育会議の開催状況	21
(5) 計画訪問・意見交換会・諸行事への参加	21

はじめに

平成19年6月に「教育改革関連3法」の改正が行われ、その中で、教育委員会の責任体制の明確化や体制の充実に関する規定の整備を図るため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成20年4月から教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表をしなければならないとされました。

倉吉市教育委員会では、本市における教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、平成23年に“くらしよし”ふるさとビジョン（第11次倉吉市総合計画）と連携した「倉吉市教育振興基本計画」を策定し、将来的な方向性や今後5年間（平成23年度～平成27年度）に重点的に取り組むべき施策を示すとともに、各年度の「倉吉市の教育方針と重点施策」と「倉吉市教育行政の点検及び評価」により進行管理をし、着実な計画の推進に努めてきました。その結果、倉吉市の教育理念「豊かな心を持ち、個性を發揮する人づくり」の実現を図るための様々な施策を展開することができました。

そして、今後、一層進む少子高齢化社会に対応する教育行政をするために、「倉吉市教育振興基本計画」の第二期（平成28年度～平成32年度）を策定いたしました。

倉吉市教育委員会としては、特に「豊かな心を持ち、個性を發揮する人づくりの推進」「魅力ある歴史・文化資源を活用した文化の振興」を政策に掲げ、「生涯学習の推進」「義務教育の充実」「文化財の保護と活用」「体育・スポーツの振興」などに重点をおきながら、誰もがいつまでも「学び続ける人づくり」を目指し「みんなが生きる喜び」をもてるような取り組みを進めていかなければなりません。

そのためには、自ら設定した教育に関する方針や施策の実現を図るために、事業等の取り組み状況を日々点検・評価を行いながら改善を図り、より充実したものにしていけることが必要です。

そこで、市民から信頼される教育行政を目指し、教育委員会や事務局の役割、事業の進捗状況等について説明責任を果たすため、重点的に取り組んだ14項目の点検・評価を行い、その結果を公表し、効果的な教育行政の推進を図るものです。そのほか、教育委員会の会議の開催などの活動状況を記載し、ここに報告書としてまとめました。

※参照

◎地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

1 評価・公表について

(1) 実施時期

点検及び評価は毎年度行うこととされており、当該年度における取り組み状況の点検・評価を年度内に行う。

(2) 評価の方法

教育委員会全般にわたり適正な教育行政の点検・評価や総合計画に掲げた目標水準の達成状況、施策の進捗状況との整合性を図りながら評価項目を策定し、評価にあたっては、審議会等に諮り、自己評価、外部評価を行う。

(3) 議会への報告

報告書を作成し議会に提出しなければならないこととされており、6月市議会に報告を行う。

(4) 一般への公表

課題を共有化しその解決を図るために広く意見を求め、より適正な評価に努めるために評価結果を市民に公表する。

(5) 各種教育関係機関の評価結果の活用

学校評価、社会教育団体、文化団体、スポーツ団体の評価結果の効果的な活用を行う。

(6) 外部の有識者等の知見の活用

○点検・評価・公表の流れ

教育委員会事務局の組織マネジメント(PDCA)及び業務評価システムの確立

P計画 → D実施 → C検証(中間評価) → A実行 → C評価(自己・最終)

4月 倉吉市の教育方針と重点施策を基にした各課の基本方針と実施計画を策定する



9月 重点施策の実施計画の進捗状況のチェックを中間評価とする。



2月 重点施策の実施状況を各課で自己評価をする。



3月 各課の担当する審議会等に自己評価結果を提出し、外部評価を最終評価とする。



4月 教育委員会定例会で業務評価として協議し、市議会に提出し、6月市議会に報告する。

市民へは、リーフレット、ウェブページ、市の広報誌等を活用して公表する。

2 評価に当たって

第11次倉吉市総合計画における、施策と教育委員会事務局で取り組んでいる施策との整合性を図りながら総合的な観点での評価に心がけた。評価に当たっては、平成29年度各事業の施策に示した目標に向かって、取り組むべき事業ごとに「目標」「実績」「成果」「課題」の観点に分けて行うこととした。また、評価項目については特に焦点化をはかり点検・評価の重点化を図ることとした。

○ 評価基準

平成24年度評価より評価基準を見直し、目標を上回る成果が上がった場合をA評価とした。目標値達成率を目安に、「成果」欄には、実績によって得られた成果を中心に評価を行った。

成果	判 断 基 準
A	当初の目的・目標を上回る成果が上がった（目標値の110%以上）
B	当初の目的・目標を達成した（目標値の90%以上110%未満）
C	当初の目的・目標を下回る成果に止まった（目標値の60%以上90%未満）
D	当初の目的・目標を大きく下回った（目標値の60%未満）

3 主な重点施策の成果

区 分	施策数	成 果			
		A	B	C	D
施策と担当課		目的・目標を上回る	目的・目標を達成	一部の進展に止まった	目的・目標を下回る
倉吉市教育の創造					
教育総務課	3	1	2		
学校教育課	1			1	
学力向上の推進					
学校教育課	4		4		
豊かな心の育成とたくましい体の育成					
学校教育課	4		3	1	
倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成					
学校教育課	4		4		
家庭・地域と連携した開かれた学校づくり					
学校教育課	3		3		
よりよい倉吉教育を目指して					
学校教育課	3	1	2		
給食の充実、食育の推進					
学校給食センター	3		3		
地域力を育む社会教育の推進					
生涯学習課	2	1		1	

支えあう人づくり・輝くまちづくり					
生涯学習課	3	1	2		
施策と担当課	施策数	A	B	C	D
公民館活動の推進					
生涯学習課	3	3			
体育・スポーツの振興					
生涯学習課	3		3		
文化財の保存、活用、伝承					
文化財課	2	1	1		
親しみ学ぶ機会の提供できる博物館					
倉吉博物館	3	1	2		
豊かな心を育む図書館づくりの推進					
市立図書館	3	1	2		
計	44	10	31	3	

平成29年度 倉吉市の教育方針と重点施策

～行きたい学校・
帰りたい家庭・
住みたい地域～

教育基本法
・人格の完成と、社会の形成者としての国民の育成
学校教育法
社会教育法
図書館法
文化財保護法
博物館法

【教育理念】
豊かな心を持ち、個性を發揮する人づくり

【教育目標】

- ・幅広い知識を身に付け、豊かな心を培い、健やかな体を養う。
- ・個性を尊重し、創造性を培い、自律性・自主性を養う。
- ・社会の一員として、参画し寄与する態度を養う。
- ・自然を大切に、伝統と文化を尊重する態度を養う。
- ・郷土を愛し、他人や他の地域を尊重する態度を養う。

“くらしよし”ふるさとビジョン

【将来都市像】
愛着と誇り 未来いきいき
みんなでつくる倉吉

【教育・文化・コミュニティ】
活力に満ち、豊かな心と文化が息づくまち
倉吉市まち・ひと・しごと創生総合戦略

倉吉市教育の創造

- ・第2期倉吉市教育振興基本計画の進ちょく管理（5年計画の2年目）
- ・倉吉市震災復興計画の推進（平成28年度～平成31年度 3年5ヶ月）
- ・倉吉市教育委員会の活性化（教育に関する事務の点検・評価の推進、総合教育会議、学校・公民館訪問）
- ・「倉吉市立小学校適正配置推進計画」に基づく学校再編の推進（各校区説明会、各地区協議会の立ち上げ）
- ・教育環境の整備充実（学校施設の復旧事業、小中学校校舎内トイレ洋式化事業、河北小教室間仕切り整備事業、中学校防犯カメラ設置、小中学校教育用LANシステム、教材備品整備）

学校教育基本方針
豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成
～自ら学び、たくましく生きる～

社会教育基本方針
倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進
～いつでも どこでも だれでも とともに学び 地域力を育む～

学力向上の推進

- ・学力向上推進支援（小・中連携教育の推進、合同研修会）
- ・わかる授業のための授業改善（教職員の指導力向上）
- ・細やかな指導を行う体制づくり（少人数学級・教員加配）
- ・外国語教科化の対応 ALT配置 ICT活用

地域力を育む社会教育の推進

- ・学習内容の充実、学習成果の還元（人材銀行、生涯学習講座）
- ・専門・実践的な高等教育の提供（鳥大、看護大・短大等連携）
- ・成人教育の推進（成人式実行委員会等）

豊かな心とたくましい体の育成

- ・道徳教育・人権教育の充実
- ・特別活動の充実（乳幼児ふれあい事業）
- ・キャリア教育の充実（職場体験）
- ・いじめを許さない学校体制づくり
- ・問題行動、不登校の早期対応 小中連携推進事業
- ・相談体制の充実（スクールソーシャルワーカー拡充）
- ・読書活動・情報教育の推進
- ・学校体育、健康教育及び学校保健、安全教育の充実

支えあう人づくり・輝くまちづくり

- ・地域を支える人づくりの推進（中高生の活躍、地域発掘）
- ・青少年の健全育成と青少年団体の育成支援
- ・次世代育成のための体験活動の推進（放課後子ども教室）

倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成

- ・倉吉独自の教材の活用（くらしよし風土記の活用）
- ・地域の人・もの・ことがらに触れる教育活動の推進
- ・倉吉らしさを取り入れた教育活動の実施（土曜授業）

公民館活動の推進

- ・学習の質の向上と学習成果の活用（地域連携、研究部会）
- ・人づくり・地域づくりの推進（公民館研究指定事業）
- ・安全安心な施設整備（災害復旧工事、空調整備）

家庭・地域と連携した開かれた学校づくり

- ・地域学校委員会の充実 地域学校協働活動推進事業
- ・学校支援ボランティアの拡充

体育・スポーツの振興

- ・市民のスポーツ活動支援（駅伝・櫻相撲・全国大会出場他）
- ・体育施設の整備充実（射撃場水路改修他・海洋センター浮棧橋）
- ・体育施設の災害復旧（野球場・陸上競技場・温水プール他）

よりよい倉吉教育をめざして

- ・特別支援教育の充実（元気はつらつプラン）
- ・教科指導法研究事業
- ・幼保小連携の充実（接続期のカリキュラム作成）

有形・無形の歴史的な資産の保存と活用

- ・伝建地区の災害復旧・保護（修理・修景事業）
- ・指定文化財の災害復旧・保護（小川家・桑田家・倉吉淀屋）
- ・埋蔵文化財の発掘調査（313号線・津原）

給食の充実、食育の推進

- ・栄養教諭等による食に関する指導、食物アレルギー対応の推進、衛生管理の徹底、給食管理システム改修

親しみ学ぶ機会の提供できる博物館

- ・郷土の文化芸術、伝統文化を学べる場の提供
- ・トリエンナーレ美術賞（前田寛治大賞展準備、）
- ・安全安心な施設整備 災害復旧、歴史民俗資料館改修

豊かな心を育む図書館づくりの推進

- ・図書館資料の収集・提供、レファレンスサービスの充実
- ・読書活動の推進（講演会等）
- ・山上憶良短歌募集（全国からの募集）

5 重点施策の実績と評価

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価
倉吉市教育の創造 1	第2期倉吉市教育振興基本計画の進ちょく管理(5年計画の2年目)	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画に基づく重点施策実施計画の策定 教育に関する事務の点検・評価の推進 	教育総務	教育行政の点検・評価を行うとともに、実施計画を作成、10月に進捗状況を確認、3月に各課による自己評価を行った。	B	B	各施策について、概ね当初の計画とおり実施することができた。 各地区協議会の立ち上げに向けた説明会を開催し、その内容をまとめたものを市内全戸配布した。協議会委員の推薦に時間を要し、立ち上げが遅れているところもあるが、児童数減少の現状を踏まえ、今後も該当地区に丁寧に説明をしながら、協議を進めていきたい。 学校教育施設・教育施設の耐震工事や災害復旧等については、工期延長など若干のずれは生じたが、年度内にはすべて完了することができた。
	倉吉市教育委員会の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 倉吉市教育の方針の明示 住民の意向や教育現場の実情の把握 総合教育会議の充実 教育委員の活動の顕在化 	教育総務	学校計画訪問、諸行事へ積極的に参加した。また、計7回のリレーコラムや教育委員会定例会、市長との意見交換の場である総合教育会議を2回開催し、その会議録等をホームページに掲載し、情報発信に努めた。	B		
	「倉吉市立小・中学校の適正配置等について」に基づく学校再編の推進	<ul style="list-style-type: none"> 適正配置の課題の整理と各地域・関係団体との協議の実施 	学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 協議会の全体会を実施し、各地区の課題について擦り合わせるための協議を始めた。委員の推薦に時間を要している地区については、引き続き協議会設置の趣旨を説明し、依頼しているところである。 	C		
	学校教育施設・教育施設の整備運営	<ul style="list-style-type: none"> 地震災害復旧工事 学校施設耐震化促進(成徳小(外構2工区)) 小・中学校校舎トイレ改修工事 河北小学校教室間仕切壁改修工事 中学校防犯カメラ設置 PC教室等教育用LANシステム等整備 	教育総務	<ul style="list-style-type: none"> 耐震工事、トイレ改修工事、災害復旧工事については、いずれも当初予定していた工期を延長したものの、年度内に完成し当初の目的は達成できた。 施設修繕ならびにPC整備等については、予算の範囲内において可能な改修、更新を行うことができた。 	A		

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価	
豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成	2	学力向上の推進	1	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校区で講師を招聘した研究授業及び研究会を実施している。 ・各中学校区ごとの課題に基づき、授業実践を行った。その上で小中連携の成果と課題を明らかにした。 	B	B	<p>全国学力・学習状況調査から、中学校では特に数学において確実な学力の定着が見られた。一方、小学校においては、活用問題を中心にやや課題が見られた。調査結果については、分析で終わるのではなく、どう日常の授業改善につなげていくかを研究主任会で話し合い、各校の実践に活かしてもらうようにした。要請訪問においても、各校の調査結果を踏まえながら、適切な助言をするようにした。</p> <p>小学校外国語活動、教科外国語の先行実施を念頭に、平成27年度より教員研修を始めており、今年度も引き続き進めることができた。</p> <p>年計を作成し、小学校の先生方の負担感が少しでも軽減され、より意欲的に授業に臨んで頂けるよう準備をした。</p>	
			2	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業のための授業改善（教職員の指導力の向上） 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査結果の分析から、授業改善の視点を明確にして日々の実践に活かす取組が見られた。 ・要請訪問指導助言14回 ・中学校CRTの結果 			B
			3	<ul style="list-style-type: none"> ・細やかな指導を行うための体制づくり（少人数数学級・教員加配） 	<ul style="list-style-type: none"> ・7校に加配を配置。学校、学年、学級の実態に応じた少人数指導を実施。 ・今後、より効果的な少人数指導のあり方について、校内研究推進と連携しながら検討を継続していく必要がある。 			B
			4	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語教科化の対応（小学校・中学校） 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の先行実施に向け、小中学校の先生方を対象とした研修会を実施し、新学習指導要領までのスケジュールや目標、具体的内容を周知した。 ・倉吉市としての施策を周知する研修会も実施し、小3～小6の年間指導計画も提示した。中学校の先生方にも知って頂き、小中連携をした授業実践につなげて頂くよう依頼した。 			B

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価
豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成	3 豊かな心とたくましい体の育成	1 ・人権教育の充実（育てたい資質・能力を明確にした実践）	学校教育	・部落差別解消法を受け研修を行い、各学校の年間計画を振り返ったり、久米中学校の実践発表から自校に取り入れる内容を協議したり、研修を深めることができた。	B	B	人権教育に関しては、概ね計画通りに実施することができた。 赤ちゃんふれあい会については、概ね計画通りに実施した。昨年まで希望制だったが、今年度は全小学校の実施とし、中学校は家庭科の学習で行うこととした。成果はあるが、一緒に運営をする児童館等はこの事業の良さを理解していただき、協力を得るよう子ども家庭課との協議を重ねていきたい。 体力面は概ね良好な状況である。 いじめ対策推進法のもと、各学校がいじめの未然防止、早期発見に力を入れている。いじめアンケートを毎月実施する学校が増えている。 支援会議等のやり方について、SSWRが学校にアドバイスをし、体制改善につながったケースがある。不登校児童生徒数は、年度当初の目標であった1割減は達成できなかった。
		2 ・道徳教育・体験活動の充実（乳幼児ふれあい事業）	学校教育	・小学校13校年間2回のふれあい会の実施を行った。中学校5校は、家庭科の学習の中で保育体験を実施した。命のぬくもりを感じ自分も家族から愛されてきたことを実感することができた。	B		
		3 ・相談体制の充実、いじめや問題行動の未然防止、（倉吉市いじめ防止基本方針の徹底、不登校対策）	学校教育	・小中学校18校が、いじめ防止基本方針に則り、いじめの未然防止と早期対応を図っている。 ・不登校対策として重点4校を指定し、各校で毎月関係者が集まってスクリーニング会議を行った。各校の事案について早期にそれぞれの機関ができることを話し合い、有用な会となった。来年度よりよい会になるよう工夫していきたい。 ・全市における不登校は、小学生が前年度比3名増加、中学生は前年度並みだった。	C		
		4 ・たくましい体の育成（体育、健康教育、学校保健の充実、安全教育の充実）	学校教育	・喫煙防止教育を小学校8校、中学校3校実施。 ・性教育講座中学校5校実施。 ・新体力テストの結果でおおむね良し（A～C）と判定される児童生徒の割合。小学校中学校調査中 ・通学路の新規危険箇所を抽出した結果、18箇所の合同点検を実施し、決定した対策について各機関で実施していくことになった。	B		

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価
豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成	4 倉吉に誇りと愛着をもつ子どもの育成	1	・倉吉独自の教材づくりの推進（くらよし風土記の活用）	学校教育	・「わたしたちの倉吉」は小学校社会科の授業で随時活用、「くらよし風土記」は、土曜授業における「ふるさと学習」等で活用した。	B	B 「くらよし風土記」は中学校の土曜授業や、倉吉市を様々な視点から探求する総合的な学習内で活用されている。今年度は、平成28年10月に発生した鳥取県中部地震に関する記述を加えた改訂版を制作した。 ふるさと倉吉に愛着を持つ子どもの育成をめざし、各校で積極的な見学先や人材の発掘および活用がなされている。
		2	・地域の人・もの・ことがらに触れる教育活動の推進	学校教育	・各小中学校がそれぞれの教育課程にあわせて、市内にある多くの施設等を見学し、施設の役割や働く人たちの思いを学んでいる。体験学習も取り入れられており、児童生徒がふるさと倉吉への思いを深め、関心を高める一助となっている。	B	
		3	・土曜授業の実施（ふるさと学習を中心とした地域との共催）	学校教育	・計画通りに実施し、土曜日という日を活かして特色ある取組を実施した。	B	
		4	・倉吉らしさを取り入れた教育活動の実施	学校教育	・今年度で9年目となり、学校が主体となって地域を交えた取組が定着してきた。今年度は、中学校区での共通実践に取り組んだ。	B	

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価		
豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成	5	家庭・地域と連携した開かれた学校づくり	1	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくりの推進（学校評価の効果的な活用） 	学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 概ね計画通りに実施した。学校のウェブページも児童の生徒の活動の様子が保護者や地域の方に発信している。 	B	B 学校管理規則を改正し、地域学校委員会がコミュニティスクールとなった。各学校においてはこれまで以上に地域と連携・協働した取組が行われるようになってきている。今後、地域の次世代育成のために学校の役割、地域の役割を明確にし、取組の充実を図っていく必要がある。	
			2	<ul style="list-style-type: none"> 学校地域連携の取り組み推進（子どもの出番づくり） 	学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 13地区で「教育を考える会」を実施。各地区において子どもの成長を考えた内容のものが実施され、熱心に協議等が行われた。 	B		
			3	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営に参画する体制づくり（地域学校委員会の充実） 	学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 各学校の地域学校委員会が地域の特色を生かして活動し、地域と学校との連携がより強化されてきた。学校支援ボランティア1,656人、数人のべ人数29,423人 	B		
	6	よりよい倉吉教育を目指して	1	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の充実（児童生徒を支える学校体制づくり） 	学校教育	<ul style="list-style-type: none"> まなびの教室教育相談により次年度に入学する児童の就学支援につながった。 リーダー育成研修会では、リーダーとして校内外に広める取組ができなかった。内容・参加対象を検討していきたい。 教科指導法研究事業では、体づくり運動を取り入れ、国語科と体育科の実践を行った。 	B		B 発達障がいのある児童生徒に対する教科指導法研究事業により発達支援アドバイザーを中心に全小学校でつまずきのポイントを明らかにし支援策を提案したり、子ども家庭課との情報共有を密にしたりして、早期支援を行う体制づくりに努めた。 新入学学用品費等を増額かつ入学前支給を行うことで、入学準備の保護者負担を軽減することができた。
			2	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育の充実（研修機会の拡大） 	学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 小P連・中P連との共催により教育講演会を開催して、3年目となった。保護者の参加を増やそうと講師を選んだ結果、参加者が増え、内容も満足のものとなった。 	B		
			3	<ul style="list-style-type: none"> 教育助成の充実（就学援助事業の周知と適切な執行） 	学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 新入学学用品費等を増額かつ入学前支給を行った。要綱改正を行い、事務手続きの見直しをした。 	A		

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価
豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成	7 学校給食の充実、食育の推進	1 栄養教諭等による食に関する指導	給食センター	<p>小中学校9年間を通じて計画的な指導を行うことにより、児童・生徒の「食に対する理解と関心」を深めることができた。</p> <p>全小学校1年生とその保護者を対象とした「親子で学ぶ食の教室」については、平成28年度に鳥取県中部地震のため中止となった分も含め、計27回開催した。また、この教室は保護者の参加が多く、参加した保護者からは「食に関する会話が家庭内で増えた」などの声をいただいている。</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 給食主任や学級担任、教科担任等と連携を図りながら、望ましい食習慣の定着につながるよう、食に関する指導等を進めることができた。 調理業務の衛生管理等を徹底することで、安全・安心な給食の提供につなげることができた。 研修会を開催することで、教職員が食物アレルギーの基礎的知識を習得し、児童・生徒のアレルギー症状発症時の校内の緊急対応等への共通理解を図る貴重な機会となった。
		2 学校給食衛生管理基準に基づいた衛生管理の徹底	給食センター	<p>学校給食衛生管理基準に基づき、調理業務の衛生管理等について、工程表等を確認しながら責任者と協議し、随時指導を行った。</p>	B		
		3 食物アレルギー対応の推進	給食センター	<p>食物アレルギー用献立表(全員分・個別分)を作成し、学校・保護者と連携しながら食物アレルギー事故の防止を図った。</p>	B		

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価
倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進	8	地域力を育む社会教育の推進 ～現代的及びライフステージに応じた学習機会の充実～	1	成人式（成人式実行委員会、中学生ボランティアによる運営）	生涯学習 成人式に酒類・拡声器等の不要物の持ち込み、場内の大声等不心得な行為があり、成人企画の一部を取りやめた。 実行委員とOB・OGが主体的に企画・準備に関わることができた。今年度は中学生に加えて高校生もボランティアとして当日運営に参加した。 実行委員 16名 実行委員OBOG 6名 中学生ボランティア32名 高校生ボランティア13名	C	○成人式実行委員が主体的に役割を果たし、企画・準備を行うことができた。OB・OGも引き続き相談役として関わり、つながりを保つことができた。式の警備体制の充実が課題となる。 ○各種講座は、昨年度に引き続き地域課題を意識しながら実施。学習成果を地域の活動に活かせる内容とした。 ○看大・鳥短公開講座、鳥大講座ともに、地域の課題と大学の専門性の均衡を図った学習機会の提供でもって、参加者の学びが深まった。 ○社会教育関係課の連絡会により、事業日程の重複を防ぎ、参加しやすいよう配慮した。また、連携して事業を行うことで内容の充実と事務軽減が図られた。 ○女性が企画運営の主体となって学習を実施することで、当事者意識を持って事業に参画でき、学習テーマに即した学びに加え、企画運営力も培うことができた。また、地域を越えた女性同士のネットワークの構築に繋がった。
			2	各種講座開設 専門・実践的な高等教育を受ける機会確保（鳥取看護大学・短期大学・倉吉市連携講座、生涯学習講座、鳥取大学連携講座、人材銀行、女性連絡会）	生涯学習 【看大・鳥短公開講座】地震の経験から、共助を意識したテーマを設定。今自分たちにできることを考えた。 【生涯学習講座】従来の講座に加え、県と連携して「若者講座」を実施。市内外の若者が学習・交流を図る新たな取り組みを始めた。 従来講座の中で関金温泉1300年関連事業に取り組んだ。 【鳥取大学講座】参加者は少なかったものの、鳥大で講習を受け、各自が学びを深めることができた。 【女性教育】女性連絡会の活動が中学校区並びに全市において実施できた。活動（研修会）の中で参加者間の活発な意見交換、主体的な交流が進められた。	A	

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価	
倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進	9	支えあう人づくり・輝くまちづくり～絆づくりや地域のコミュニティ形成に向けた学習活動の推進～	1	青少年の健全育成と青少年団体の育成支援（子ども会・ものづくり道場・伝統文化体験教室）	生涯学習 【子ども会】倉吉市子ども会育成連絡協議会が実施する研修会に加え、鳥取県子ども会育成連絡協議会等が実施する研修会にも参加者が多く、児童や保護者間で子ども会活動への理解や取り組み方が広がった。 【中部地区社会教育担当者会】積極的な広報活動に努め、例年以上に多くの児童の事業参加が得られた。 【フォーラム】市内高等学校同士や高校と中学校、高校と地域を繋ぐきっかけを作ることができた。	A		○「子ども主体による子ども会運営」とする子ども会のあり方を新規役員（理事）と共有し、子ども会の活動支援に繋がる事業が実施できた。 ○異なる学校や地域の仲間に加え、サブリーダー（中高大学生）と協力しながら自然活動や体験活動を行い、新たな人間関係の構築や楽しさの中で子どもの生きる力を育んだ。 ○地域で活躍されている多くの関係者に高校生の力や魅力を伝えるとともに、地域と高校生を繋ぐ役割を果たすことができた。
			2	放課後子ども教室推進事業（児童館一体型、子どもいきいきプラン、通学合宿）	生涯学習 運営委員会を2回実施。事業内容と進捗を確認した。各地区における放課後子ども教室については、市内で14教室、年間を通して実施した。	B	B	○放課後子ども教室を通して、子どもの居場所づくりと、子どもと地域住民との交流を促すことができた。運営委員会では、各地区の取り組みについて情報共有を行い、新たな事業の実施へ結びついた地区もあった。 ○補導対象事業や街頭補導の内容を見直し、県助成金の増額や中高生の現状に基づく補導活動を実施した。学校や福祉行政機関との情報共有が促進され、管内の青少年を取りまく課題（薬物乱用や相談機関の周知）に対応した取組みが実施できた。 ○インターネットを通じ青少年が被害者になる事件が全国的に続発したことを受けて、啓発活動の回数を増やした。ペアレンタルコントロールの重要性の普及に積極的に努めた。
			3	倉吉地区少年補導センター事業への参画、青少年育成協議会との連携	生涯学習 【倉吉地区少年補導センター】倉吉地区少年補導センターの事業に関する協議や情報交換を行なう運営員会を年6回、予算や事業計画について協議する評議員会を年2回実施した。また、市町の定期的な街頭補導に加え、青少年関係者の研修会実施や参加、啓発に努めた。 【倉吉市青少年育成協議会】あいさつ運動や研修会への参加に加え、他の青少年団体と協力しペアレンタルコントロール啓発活動に取り組んだ。	B		

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価
倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進	10 公民館活動の推進 ～学習の質向上と学習成果の活用～	1 学習の質向上と学習成果の活用（公民館と地域振興の連携）	生涯学習	市公連・館長会と連携し、主に公民館事業の充実・課題解決等について検討・議論した。 定例館長会内において社会教育委員と語る会を設け、相互理解を深めた。 館長会・主事会ともに、災害時の地区公民館の役割について検討を進めている。 今年度より全館に社会教育主事講習受講生が配置された。	A		
		2 人づくり・地域づくりの推進（公民館研究指定事業）	生涯学習	【公民館報】社公民館報の全国コンクール最優秀賞を受け、県公民館研究集会で実践発表。 【公民館計画訪問】地震の影響で2年ぶりの開催。今年度より教育委員や地域づくり支援課も参加し、指導助言や情報交換を行った。 【公民館研究指定事業】各公民館で地域課題解決に取り組んだ。次世代リーダー育成、地域資源の再発見など、人づくりやまちづくりに取り組んでいる。 地区公民館職員が自治公協議会（体育部など）や地区振興協議会の役員に中高生ボランティアの活用を助言、コーディネートし、地域活動につなげている。 公民館主催事業において、小学生の宿題を中高生ボランティアが支援するなど、活躍の場を提供し、つながりを保っている。	A	A	○社会教育主事講習を受講した主事が全26人中21人となり、専門の見地から各館事業の見直しや、主事研修会成果物作成を行った。また、主事研究部会において各館に共通する課題について主事自らが解決法を考え、市全体の改善につなげている。 ○公民館まつりを通して、各地区公民館の取り組みを市民へ周知することができた。 ○公民館報のHP掲載を続け、公民館情報を広く発信している。 ○計画訪問の場が、地域の課題について社会教育に加え地域づくり担当課とも検討・議論できる可能性が見えてきた。「社会教育」を通じて「地域を育む」取り組みを共有することができた。 ○公民館報や事業が全国・県下・他市でも評価されている。雑誌掲載や実践発表を通じ、市内外の社会教育に貢献している。 ○安全で安心な公民館施設の維持管理に努めた。早急に対応が必要な課題について専門部局と確認・協議を実施し、公民館と連携しつつ業務を遂行した。
		3 安全安心な施設整備（公民館災害復旧工事（上北条、上井、西郷、上灘、明倫、灘手、北谷、高城、小鴨、上小鴨）、空調整備（西郷、北谷））	生涯学習	【修繕工事】鳥取県中部地震の災害復旧工事は計画的に実施した。予定した工事は計画的に実施するとともに、上小鴨公民館の雨漏及び明倫公民館の空調設備不良等随時発生するトラブルに対し、迅速に対応した。	A		

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価
倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進	11	体育・スポーツの振興	1	スポーツ活動機会の充実(地域スポーツの振興)	生涯学習		
				<p>【スポーツ教室】 ・小鴨地区を除く12地区でスポーツ教室を実施。延723人をの参加であり、昨年度実績770人並みの参加者となった。しかし、ピーク時の885名（H27実績）から年々減少していることを踏まえ次年度以降の実施計画の検討が必要。</p> <p>【指定管理者教室】 ・体育施設指定管理者ミズノによるトップアスリート教室を開催。 参加人数：45名 講師：飯塚翔太選手（リオ五輪・銀メダル、世界陸上競技ロンドン大会銅メダル獲得） トップアスリートの体力や技術を体感した貴重な機会となった。次年度以降も同様の事業実施を指定管理者と検討する。</p> <p>【関金海洋センター】 ・震災の影響等により利用人数が1,922人と28年度実績3,138人から大幅に減少。</p> <p>【各種補助】 ・児童・生徒全国大会補助金3/14現在で23件であり昨年度19件を上回る。 ・大規模スポーツコンベンション系の補助は、交流人口を増加させ市の賑わい創出につながった。</p> <p>【学校開放】 震災復旧工事のため体育館が使用できない期間があったが、代替施設を確保したため年間の利用者数は例年と変わらず30,000人の利用となった。しかし、近隣学校施設への利用者誘導や増加する利用者の対応等により、企画運営委員会を所管する地区公民館には負担となった。</p> <p>【各種大会】 ・両駅伝大会は震災復興記念として開催。今年度は懸案事項であった警備・医療体制の強化を図った。 ・市民体育大会は、災害復旧工事が続くクレール射撃競技を除き、15競技を開催した。 ・ニュースポーツ交流会は昨年度と同程度の参加人数があり計画どおり開催できた。</p> <p>【スポーツ・コンベンション】 ・概ね順調に進んでいる。来年度機構改革により、市長事務局地域づくり支援課内に「スポーツコンベンション調整担当」が新設される。</p>	B	B	<p>○年度上半期は、震災復興対応が通常業務を大きく圧迫し、業務をこなすことに職員が追われる状態であった。このため、全般に概ね計画どおりに実施できたものの、結果として例年どおりのことを行っただけであり、各事業を連動させ繋げることができていない。次年度も災害復旧は残るが、今ある事業を再度見直し、事業ごとの連携を高めていくことを計画する。</p> <p>○震災の影響から各教室参加者は減少している。また、各地区スポーツ教室は事業の目的が薄れ参加人数が減少している。このことから、各地域で開催するスポーツ教室を来年度以降スポーツ推進委員が主体的に取り組むことを検討する。「ニュースポーツ交流会」を発表の場・交流の場とするよう13地区で同一競技の教室を開催し、市全体で生涯スポーツを推進することを計画する。</p> <p>○大規模スポーツコンベンションは、来年度新組織へ移行される。倉吉体育文化会館がスポーツライミングで日本初の3種の壁を持つ施設として生まれ替り、11月にはクライミングアジア大会も開催される。この機会を活かしクライミングの聖地として全国に向けて発信する。あわせて市民にスポーツクライミングをどのように根付かせるのか検討を早急に行う必要がある。また、ワールドマスターズゲームズの開催、東京オリンピック・フランス代表キャンプ誘致など、自転車競技の大規模イベントが予定されているが、個々の事業を一過性のものとするのではなく、「スポーツ振興を通じて地域の活性化を図る」の視点をもって、地域と自転車競技との関わりを深めていくことが必要となる。</p>

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価		
倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進	11	体育・スポーツの振興	2	<p>スポーツ指導者の養成・団体の育成</p>	生涯学習	<p>【スポーツ審議会】 ・災害復旧事業等により年1回の開催となったため、次年度以降年2回開催する。</p> <p>【体育協会】 ・震災の影響から上半期体育施設の利用停止により各団体は練習不足により表彰人数は激減している。また、スポーツ団体の情報公表・更新はできていない。</p> <p>【スポーツ推進委員】 ・概ね計画どおりに進んだ。次年度の事業見直しを役員会で検討しており、来年度からスポーツ教室をスポーツ推進委員事業として取り組み、地域開催するスポーツ教室とニュースポーツ交流会をつなげることを考えたい。スポーツ推進委員がさらに地域と連携する仕組みをつくり、スポーツ推進委員が「地域スポーツのコーディネーター」として定着するよう活動の充実を進めていきたい。</p> <p>【スポーツ少年団】 ・概ね計画どおりに大会を実施したが、推進にあつての課題も多く残る。スポーツ少年団の組織のあり方、大会の再編成についてさらに踏み込んだ検討が必要である。</p>	B	B	<p>○学校施設や体育施設のほとんどが被災し、復旧工事により練習環境が整わない中、各種大会での活躍は目覚ましい。今年度はスポーツ競技による市民栄誉賞の受賞もあった。また、今年度行った研修会等のアンケート結果に基づき、現場で必要となるスキルの向上を図り、次世代の子ども達が様々なスポーツに親しみ楽しみながら努力できる環境の創出を研究し、企画していきたい。</p> <p>○子ども達のスポーツ活動において、昨今ケガや故障の事例が多く報告されている。また、試合数が多いことがケガ等に繋がっているとの事例もあるため、次年度以降スポーツ少年団の事業を見直すとともに、指導者の意識改革を含む研修等を充実していきたい。</p>
			3	<p>体育施設の整備充実</p>	生涯学習	<p>【体育施設修繕】 ・緊急度の高いものから順次実施した。</p> <p>【災害復旧工事関係】 ・年度内に計画した工事及び復旧工事を完了した。</p> <p>・地震とその後の台風により射撃場法面に亀裂が発生したため12月補正で予算措置を行った。現地調査・設計に時間を要したため工事費を繰越して対応する。</p>	B	B	<p>○体育施設の災害復旧は、一部工事で遅れはでたものの、概ね計画どおり完了した。今後は指定管理者と協力し、各施設の状況を確認するとともに、復旧した施設の維持・補修を実施していく。</p> <p>○次年度も緊急性の高いものから順次実施する。</p>

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価	
倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進	12	文化財の保存、活用、伝承	1	伝建地区の保存（修理・修景事業、保存計画の策定）	文化財	<p>伝建事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度より継続地区内2/3の建造物が被災している。 【平成28年度繰越事業】 ・修理事物28件、修景物件3件終了。石垣2件 【平成29年度事業】 ・震災による設計士、工務店等の人手不足などにより事業の計画が思うように進捗しなかった。 ・解体を回避し保存できた物件が8棟ある。主屋と土蔵を保護するため付属屋2棟は解体せざるを得なかった。 ・倉吉町並み保存会の定例会を年間6回に変更し、よりこまめな復興対応が出来るようにした。 ・「打吹玉川だより」を年間5部発行することで地区内の変化を発信してわかりやすくした。 ・6回の事業変更申請を行いスムーズな事業の遂行ができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・伝建事業の震災復旧事業を推進しているが今年度末で伝統的建造物被災物件の5割程度を事業化することができたが、修理が完了したものは4割程度にとどまった。 ・伝建地区の震災修理に取り掛かっているが修景物件を含めると計画通りに進んでいない。 ・波波伎神社社叢保存活用計画に基づき社叢の植生回復のための伐採を行い地域の方と協力し大学も巻き込んだ社叢の保護活動につながった。 ・倉吉淀屋付属屋の修理が終わった。 ・桑田家の修理計画を所有者の意向を確認しながら事業提案し進めることが出来た。 ・小川氏庭園の修理計画を検討し年次計画を始めることができた。 ・古代山陰道の支線の遺構調査の現地説明会を行い現在急ピッチで解明されつつある古代山陰道の解明の調査を行うとともに地域の方、考古学ファンに報告することができた。
			2	指定文化財の整備と発信 埋蔵文化財の調査	文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・波波伎神社社叢の伐採も終え植生の更新を促すことができた。次年度以降鳥取大学の継続調査に繋がった。 ・小川氏庭園の修理を進めた。公開に向けた準備を協議していった。 ・倉吉淀屋の付属屋の遺構を確認し適切に復原した。 ・十一面観音立像の修理を行い江戸時代の作であることが分かり報告会も行った。 ・関金地区の文化財ウォークを行い多くの方が土木施設の文化財や仏像など様々な文化財に市民の方を案内することができた。 ・国分寺の不要木を伐採し景観が一新された。 ・松ケ坪遺跡の調査では大御堂廃寺の遺物を数多く発掘し次年度の保存活用計画の資料とすることができた。 ・灘手地区で古代山陰道の支線が発見できその説明会を行うことができた。多数の見学者が参加した。 ・年間の事務手順の見直しを行い新たなサイクルを実施・検証し、次の計画を策定した。 ・小鴨川流域の古墳について報告会を開催した。（博物館事業） 	A	

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価	
倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進	13	親しみ学ぶ機会の提供できる博物館	1	郷土の文化芸術、伝統文化を学べる場の提供	博物館	当初計画は概ね予定どおり進行了た。 ・休館中の館外展示や再開館後の復興記念展の開催など、災害による休館で市民に迷惑をかけたがより多くの展示事業を行った。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・災害復旧工事による休館中、まちかど博物館として出張展示を行い、市民はじめ観光客にも気軽に立ち寄っていただき、倉吉文化に触れる機会を作り出すことが出来た。復興記念展では、様々なジャンルの作品や資料を展示し、復興なかばの人々に感動を与えることができた。 ・平成30年度に第10回を迎える前田寛治大賞は、30人の作家指名を終え、来年度の開催を待つばかりとなった。 ・長年の懸案だった歴史民俗資料館の改修工事も無事終わることが出来た。
			2	トリエンナーレ美術賞（前田寛治大賞）の実施	博物館	概ね計画どおり進行了た。	B	
			3	災害復旧工事と施設改修工事	博物館	天候による外構工事の遅れや不測の亀裂など工期が延長したが概ね事業が進捗した。	B	
	14	豊かな心を育む図書館づくりの推進	1	図書館資料の収集提供、レファレンスサービスの充実	図書館	市の他部局、県、関連する民間団体、他県の図書館などと連携し、話題になっている事柄や時期を得たテーマの展示を実施し、読書への関心を高めた。10月には県公文書館と協力し鳥取県中部地震のパネル展示を実施した。	B	
			2	読書活動の推進	図書館	家庭での読み聞かせの普及に効果がある好評のブックスタートを円滑に実施できた。読書に関心を持ってもらうため絵本作家講演会を行い多くの市民に喜んでいただくとともに、昨年引き続き小学校2校と連携してワークショップを実施し、子どもたちの想像力を刺激し読書意欲を膨らませることができた。他の各イベントも人気だった。	A	
			3	山上億良短歌賞全国公募	図書館	2回目の全国公募を行った山上億良短歌賞は応募数が5,495首と昨年度を下回ったものの、5,000の大台を超えることができた。今回も国内は45都道府県、海外からも応募があり、倉吉と山上億良の活躍を広く喧伝することができた。審査をはじめとする事務も昨年の反省をもとに工夫を加え、円滑に進めることができた。	B	

6 教育委員会の主な動向

(1) 教育長・教育委員の在任状況

(H30. 3. 31現在)

職名	氏名	年齢	就任年月日	任期	保護者
教育長	福井 伸一郎	66	H27.10.3	H30.3.31	
教育長職務代理者	仲田 優子	57	H28.10.5	H31.10.4	○
委員	福井 真喜代	65	H26.10.8	H30.10.7	
委員	田民 義和	60	H28.10.5	H32.10.4	
委員	高橋 義博	55	H30.1.1	H33.12.31	

①委員の異動（市長が任命）

平成29年12月31日をもって宮近誠委員が任期満了によって退任され、平成30年1月1日付けで高橋義博委員が任命された。

②教育長職務代理者の異動（教育長が指名）

宮近誠教育長職務代理者が任期満了により退任され、仲田優子委員が職務代理者に指名された。

(2) 教育委員会の会議

(H29. 4. 1～H30. 3. 31)

会議名	回数	備考
教育委員会	14	議案29件、協議事項12件、報告事項203件

(3) 教育委員会の開催状況

4月18日第6回臨時会

議案（2件） 議案第9号 平成29年度教育費補正予算について
 議案第10号 議会に議決を経るべき工事請負契約の締結にかかる意見の申出を教育長へ委任することについて

4月28日第7回定例会

議案（1件） 議案第11号 倉吉市地域学校委員会委員の任命について
 協議事項（3件） 平成28年度倉吉市教育委員会の重点施策の実績及び評価について
 平成29年度倉吉市教育委員会の重点施策に基づく実施計画について
 平成28年度土曜授業について
 報告事項（21件） 教育長報告ほか20件

5月25日第8回定例会

議案（3件） 議案第12号 平成28年度倉吉市教育行政の点検及び評価について
 議案第13号 平成29年度教育費補正予算について
 議案第14号 鳥取県中部地区教科用図書採択協議会の倉吉市教育委員会が選出する採択協議会委員について
 報告事項（10件） 教育長報告ほか9件

6月28日第9回定例会

報告事項（17件） 教育長報告ほか16件

7月27日第10回定例会

議案（1件） 議案第15号 倉吉市打吹玉川伝統的建造物群保存地区保存計画の変更
について

報告事項（25件） 教育長報告ほか24件

8月22日第11回定例会

議案（4件） 議案第16号 平成29年度教育費補正予算について

議案第17号 倉吉市立教育文化施設の設置及び管理に関する条例等の
一部改正について

議案第18号 倉吉市教育委員会所管施設の使用料等の減免に関する規
則の一部改正について

議案第19号 平成30年度から使用する小学校教科用図書の採択につい
て

協議事項（1件） 倉吉市小・中学校の適正配置推進計画について

報告事項（18件） 教育長報告ほか17件

9月26日第12回定例会

協議事項（1件） 全国学力・学習状況調査結果の公表について

報告事項（17件） 教育長報告ほか16件

10月27日第13回定例会

協議事項（1件） 平成29年度教育委員会重点施策に基づく実施計画の進捗状況について

報告事項（17件） 教育長報告ほか16件

11月20日第14回定例会

議案（3件） 議案第20号 平成29年度教育費補正予算について

議案第21号 倉吉市立小学校及び中学校職員の服務に関する規程の一
部改正について

議案第22号 市立中学校教職員の処分について

報告事項（15件） 教育長報告ほか14件

12月26日第15回定例会

議案（2件） 議案第23号 平成29年度末倉吉市学校教職員人事異動方針について

議案第24号 倉吉市打吹玉川伝統的建造物群保存地区保存計画の変更
について

協議事項（2件） 教職員の多忙化について

土曜授業の実施について

報告事項（18件） 教育長報告ほか17件

1月29日第1回定例会

議案（3件） 議案第1号 平成29年度教育費補正予算について

議案第2号 平成30年度教育委員会主要事業について

- 議案第3号 教育費当初予算について
- 協議事項 (3件) 平成29年度倉吉市教育委員会表彰について
倉吉市成人式に関する新聞投稿への対応について
倉吉市立小学校適正配置協議会委員の組織構成について
- 報告事項 (15件) 教育長報告ほか14件

2月9日第2回定例会

- 議案 (2件) 議案第4号 倉吉市教育委員会教育長の辞職の同意について
議案第5号 平成29年度教育費補正予算について
- 協議事項 (1件) 平成30年度倉吉市の教育方針と重点施策 (案) について
- 報告事項 (12件) 教育長報告ほか11件

3月13日第3回臨時会

- 議案 (2件) 議案第6号 平成29年度末倉吉市学校教職員人事異動について
議案第7号 市立中学校教職員の処分について
- 報告事項 (1件) 報告1件

3月28日第4回定例会

- 議案 (6件) 議案第8号 平成30年度倉吉市の教育方針と重点施策について
議案第9号 倉吉市教育委員会事務局等組織規則の一部改正について
議案第10号 学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について
議案第11号 倉吉市立小学校及び中学校管理規則の一部改正について
議案第12号 倉吉市県費負担教職員の勤務時間の特例に関する取扱要領について
議案第13号 倉吉市指定有形文化財の指定について
- 報告事項 (17件) 教育長報告ほか16件

(4) 総合教育会議の開催状況

5月25日第1回総合教育会議

- 報告事項 (1件) 平成28年度倉吉市教育行政の点検及び評価について
- 協議事項 (2件) 平成29年度倉吉市教育委員会の重点施策に基づく実施計画について
倉吉市立小学校適正配置推進計画について

1月29日第2回総合教育会議

- 協議事項 (2件) 倉吉市立小・中学校の適正配置等について
不登校問題について

(5) 計画訪問・意見交換会・諸行事への参加

① 学校計画訪問

H29. 9. 28	西中学校計画訪問
H29. 10. 6	河北小学校計画訪問
H29. 10. 18	社小学校計画訪問
H29. 10. 31	上小鴨小学校計画訪問

H29. 11. 6	鴨川中学校計画訪問
H29. 11. 10	久米中学校計画訪問
H29. 11. 14	成徳小学校計画訪問
H29. 11. 24	高城小学校計画訪問

② 公民館計画訪問

H29. 10. 11	上北条公民館計画訪問	H29. 11. 6	西郷公民館計画訪問
H29. 10. 12	成徳公民館計画訪問	H29. 11. 6	上井公民館計画訪問
H29. 10. 13	小鴨公民館計画訪問	H29. 11. 7	明倫公民館計画訪問
H29. 10. 18	上小鴨公民館計画訪問	H29. 11. 8	北谷公民館計画訪問
H29. 10. 30	関金公民館計画訪問	H29. 11. 9	灘手公民館計画訪問
H29. 11. 1	社公民館計画訪問	H29. 11. 10	上灘公民館計画訪問
H29. 11. 2	高城公民館計画訪問		

③ 意見交換会

H29. 10. 27	倉吉市中学校PTA連合会と教育委員との意見交換会
H29. 11. 15	倉吉市小学校PTA連合会と教育委員との意見交換会

④ 倉吉市立小・中学校適正配置説明会

H29. 4. 22	小学校適正配置についての全体説明会
H29. 5. 24	小学校適正配置地区説明会（小鴨地区）
H29. 5. 29	小学校適正配置地区説明会（明倫地区）
H29. 5. 31	小学校適正配置地区説明会（成徳地区）
H29. 6. 27	小学校適正配置地区説明会（北谷地区）
H29. 6. 29	小学校適正配置地区説明会（上小鴨地区）
H29. 7. 4	小学校適正配置地区説明会（灘手地区）
H29. 7. 6	小学校適正配置地区説明会（社地区）
H29. 7. 12	小学校適正配置地区説明会（高城地区）

⑤ 諸行事への出席

H29. 4. 4	転入新教職員宣誓式
H29. 4. 10	倉吉市立小中学校入学式
H29. 5. 13	倉吉市小・中学生淀屋サミット
H29. 5. 13	倉吉市小学校PTA連合会総会、倉吉市中学校・養護学校PTA連合会総会
H29. 5. 21	中部地区教育委員会連絡協議会研究会
H29. 6. 14～ H29. 6. 15	小中学校一斉公開
H29. 7. 14	鳥取県市町村教育委員会研究協議会 定期総会並びに研究大会
H29. 8. 1	倉吉博物館再開館記念式典
H29. 8. 9	市町村教育委員会委員研修会
H29. 9. 1	成徳小学校教室棟改築工事竣工式
H29. 9. 2	第63回倉吉市美術展覧会開会式
H29. 10. 3	倉吉博物館復興祈念展「華が咲く」開会式
H29. 10. 7	南部忠平杯第32回くらし女子駅伝・第37回日本海駅伝競走大会開会式
H29. 12. 2	菜の花プロジェクト報告会
H29. 12. 15	倉吉市公民館研究大会

H29. 12. 23	倉吉ハイスクールフォーラム 2017
H30. 1. 3	平成 30 年倉吉市成人式
H30. 2. 9	打吹公園だんご教育奨励賞・倉吉市教育委員会表彰 表彰式
H30. 2. 10	学校給食週間事業児童生徒作品展表彰式
H30. 2. 18	第 62 回倉吉文芸表彰式
H30. 2. 18	倉吉市体育協会スポーツ表彰式、日本海新聞ふるさと大賞表彰式
H30. 3. 9	中学校卒業式
H30. 3. 20	小学校卒業式
H30. 3. 24	山上憶良短歌賞表彰式